

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校玉湯学園後期課程

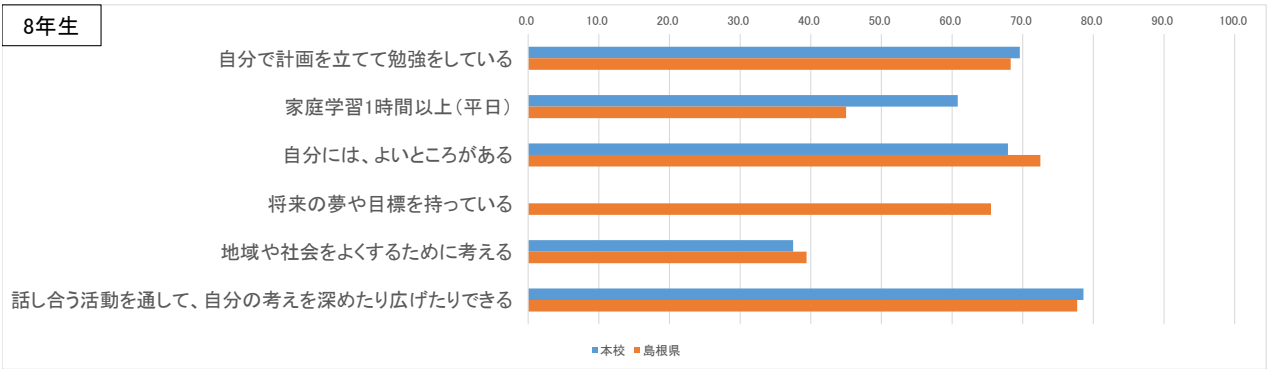
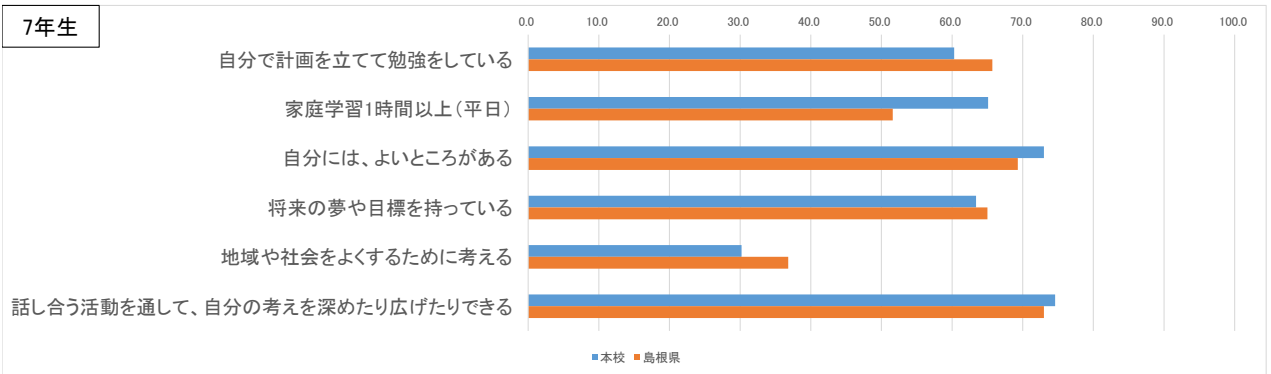
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	7年生	8年生
国語	○毎時間、あるいは長期休業明け、全校一斉の基礎力テストなどで小学校からの漢字の復習をしてきたので、その成果が出ていると思われる。今後も根気よく続け、定着を目指して指導していきたい。 ●書く力が不足しており、記述問題に弱い。無解答率も高く、書くことへの抵抗感が強い生徒も多い。読書指導と合わせ、授業で書く活動に定期的に取り組み、抵抗感が少しでも薄らぐように指導していきたい。	○どの領域でも県平均以上である。 ●記述問題の正答率が低い。短答問題では平均を超えているので、条件を付与した短作文に授業の中で取り組ませていく。
数学	○市町村、県、全国と比べても、基礎、活用、領域、どの分野でも平均以上である。 ●目標値と比べて時に、活用問題や文字式、方程式の問題で低い傾向があるので、方程式の反復練習や活用問題への取組を増やす必要がある。	○図形証明の指導の際に結論からどのように証明を組み立てるかを徹底してきたことで、証明は目標値を大幅に上回っている。 ●連立方程式の文章題から式をつくるなど、与えられた情報を整理して、問題を解く力に課題があるので、各単元ごとに、文章題を読み解く練習をしていく必要がある。
英語	○毎時間の帯活動等で基本的な構文を用いたQ&Aをすることで、英文の語順や語法の理解度が高い。 ●並び替えや場面に合う英作文の正答率が低く、無解答率も高い。やり取りの活動と並行して「書く活動」につなぐため、授業や家庭学習で「書く活動」を適切に取り入れていく。	○毎時間の帯活動等で基本的な構文を用いたQ&A、単元末の復習テストをすることで、英文の語順や語法の理解度が高い。 ●自分の考えなど自分自身のことについてまとまりのある英文を書くことが苦手な生徒が多い。自己を表現する「書く活動」を適切に取り入れていく。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	7年生	8年生
意識	○自分のことを肯定的にとらえている生徒が県平均よりも多い。 話し合う活動への意欲が県平均よりも高い。 ●勉強は気になっているが、進路への意識はまだ低い。 地域への参画の意識が県平均よりも低い。	○仲間と協力して活動したり、計画的に学習できる生徒が県平均よりも多い。 家庭学習を1時間以上している生徒の割合が県平均よりも高い。 ●自分のことを肯定的にとらえている生徒は県平均よりも少ない。 地域への参画の意識が県平均よりも低い。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 7年生 66 名 8年生 60 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)